

日米投資イニシアティブセミナーin 静岡

結果概要

平成 20 年 11 月 4 日(火)

経済産業省

1. 日時：平成 20 年 10 月 30 日(木) 13:30~19:30
2. 場所：静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
セミナー：11F 会議ホール「風」
レセプション：6F 交流ホール
3. 主催者：静岡県、経済産業省、在日米国大使館、日本貿易振興機構
4. 主な出席者：石川嘉延静岡県知事、杉田定大経済産業省審議官、パトリシア・ハスラック米国国務省 APEC 担当大使、林康夫ジェトロ理事長、杉山栄一静岡県産業部長、島田晴雄千葉商科大学学長（対日投資有識者会議座長）、アラン・スミス ACCJ 会頭、犬塚友康コーニング・ジャパン取締役静岡工場長、カイル・バープランク Shape 社対日営業部長、大嶽昌宏小糸製作所代表取締役社長、梶川隆ヤマハ発動機代表取締役社長執行役員、諸岡秀行関東経済産業局産業部長、ロバート・セクタ在日米国大使館経済担当公使、伊藤修二社団法人静岡県国際経済振興会会長（ヤマハ(株)取締役会長）
5. 参加者数：約 190 名。地域支援事業の個別招聘事業を利用し、米国より 3 社が参加。

6. 概要：

1. 主催者挨拶

石川静岡県知事から歓迎の挨拶と静岡県の産業の紹介、杉田経済産業省審議官から政府目標を紹介し、昨今の厳しい経済状況において日本が踏ん張り発展していくためにも対日投資を通じた技術や経営ノウハウの導入、クラスターの交流が重要と訴えた。

また、ハスラック APEC 担当大使からは、静岡の生活の質・交通の便の良さを例に挙げて静岡を評価するとともに、今後も米国政府として日本の対日投資政策を支援していくと発言。

2. 主催者プレゼンテーション

林ジェトロ理事長からは対日投資について日本を取り巻く現状の説明とともに

にジェトロの取り組みを紹介、ジェトロ支援企業で今回のスピーカーである Shape 社や個別招聘事業で米国より招聘した 3 社の紹介を行った。

杉山静岡県産業部長は、静岡県の地理的条件、物流インフラ、多彩な産業の集積・企業マインド（世界的企業の創始者の出身地）から企業の立地件数（工場）が日本一であること、また、静岡県の重点産業 3 分野（ファルマバレープロジェクト、フーズ・サイエンスヒルズプロジェクト、フォトンバレープロジェクト）の説明、投資優遇制度の説明を行い、静岡県の投資環境を紹介した。

3. 基調講演

島田座長は、データや事例を用いて対日投資の現状を分析・紹介し、今後の対日投資施策の方向性について、特に「5つの提言」に添った形で紹介。

スミス ACCJ 会頭は、日米関係の 2 つのテーマとして M&A と FTA をあげ、「ハーモナイズ」という言葉で官民の一層の連携が重要とし、金融部門における規制の統一化や日米 FTA の必要性を訴えた。

4. 参加米国企業紹介

米国より参加の 3 社、既に日本に進出し、今回のセミナーに参加した米国企業 2 社、今回のセミナーには 10 の州政府事務所が参加しており、参加各州の概要紹介を行った。

5. パネルディスカッション

まず 10 分程度各社自社紹介のプレゼンを行った後、あらかじめ用意してあった質問（日本（米国）に進出した理由、両国のビジネス環境の違い等）について各社から回答、その後会場からの質問に答えて、最後に島田座長が総括した。

6. 閉会挨拶

諸岡関東経産局産業部長から、冒頭、今年が「日米修好 150 年」にあたることを紹介するとともに、静岡県の地理的条件、物流インフラ特に新空港開港を控えたこの時期に本セミナーが開催されることは極めて有意義なものと説明。友好的なビジネス関係構築のためには、「結び」という言葉が重要である。本セミナーを契機として日米企業間のビジネス関係が深化することを期待。関東局としても静岡県と連携してサポートしたい旨言及。